

## 令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

### 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。  
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

### 1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	135	48	40	6.2	6.0
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月 17 日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	466
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

### 2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	158	59.9	44.2	48.9	44.2	49.8	4.4	4.7	7.6	4.2	3.7
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

## 令和7年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

### 調査結果から

#### ○中学生チャレンジテスト(3年)

##### 【成果と課題】

###### < 国語 >

全体の平均正答率では府平均を4.2ポイント、市平均を4.9ポイント下回り、無回答率では府平均を2.4ポイント、市平均を1.7ポイント下回っている。  
領域別での平均正答率では、

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項において府平均を1.2ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。
- ・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.9ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。
- ・我が国の言語文化に関する事項において府平均を0.7ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。
- ・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を1.0ポイント、市平均を1.3ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を0.6ポイント、市平均を0.6ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を1.7ポイント、市平均を2.0ポイント下回っている。

###### < 社会 >

全体の平均正答率では府平均を7.1ポイント、市平均を7.3ポイント下回り、無回答率では府平均を1.8ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。  
領域別での平均正答率では、

- ・地理的分野に関する事項において府平均を3.9ポイント、市平均を4.3ポイント下回っている。
- ・歴史的分野に関する事項において府平均を3.2ポイント、市平均を3.2ポイント下回っている。

###### < 数学 >

全体の平均正答率では府平均を5.1ポイント、市平均を5.4ポイント下回り、無回答率では府平均を4.5ポイント、市平均を3.5ポイント下回っている。  
領域別での平均正答率では、

- ・数と式に関する事項において府平均を0.9ポイント、市平均を1.1ポイント下回っている。
- ・図形に関する事項において府平均を1.4ポイント、市平均を1.4ポイント下回っている。
- ・関数に関する事項において府平均を2.0ポイント、市平均を2.1ポイント下回っている。
- ・データの活用に関する事項において府平均を0.8ポイント、市平均を0.9ポイント下回っている。

###### < 理科B >

全体の平均正答率では府平均を1.8ポイント、市平均を2.3ポイント下回り、無回答率では府平均を6.8ポイント、市平均を5.2ポイント下回っている。  
領域別での平均正答率では、

- ・「エネルギー」に関する事項において府平均を1.2ポイント、市平均を1.2ポイント下回っている。
- ・「粒子」に関する事項において府平均を0.4ポイント、市平均を0.3ポイント上回っている。
- ・「生命」に関する事項において府平均を0.4ポイント、市平均を0.6ポイント下回っている。
- ・「地球」において府平均を0.7ポイント、市平均を0.8ポイント下回っている。

###### < 英語 >

全体の平均正答率では府平均を3.4ポイント、市平均を4.6ポイント下回り、無回答率では府平均を3.6ポイント、市平均を2.8ポイント下回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・聞くことに関する事項において府平均を0.8ポイント、市平均を1.0ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を1.0ポイント、市平均を1.7ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を1.5ポイント、市平均を1.9ポイント下回っている。

#### 【今後に向けて】

##### < 国語 >

「我が国の言語文化に関する事項」において、現代仮名遣いに直す問題は府平均+11だったが、二年生時の古文の暗唱が一定の成果が出た。しかし「古文の本文中の登場人物の関係として適しているものを選択する」・「本文中の言葉を現代語に直したときの意味として適しているものを選択する」の問題において府平均より-10だったため、古文の問題演習等で更に知識を身につける必要がある。また、「情報の扱い方に関する事項」においては、「見出しを付けた部分について、内容のまとめで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとめに付ける見出しを抜き出す」・「質疑応答の一部中の空欄に入る内容を、前後の文脈に合わせて数値を用いて具体的に書く」などの問題いで、府平均より-10以上低かったため、普段から日常的に資料の活用や、引用などを行う学習活動が必要である。

##### < 社会 >

知識・技能のポイントが特に不足していることから、知識の定着を図る取り組みが必要だと感じた。今回の対策として過去問題を授業や長期休業の課題とし、繰り返し復習教材として活用した。その結果、2年次の平均ポイントを上回る結果が出ていることから、期間・回数増やし、知識の定着を図るようにしたい。

##### < 数学 >

知識・技能のポイントが平均より大きく下回っていることから、知識の定着を図る取り組みが必要。特に図形・関数のポイントが低いので、そこを中心に授業内や課題として取り扱い、知識の定着を図る。

##### < 理科B >

知識技能分野に比べて、思考判断分野の得点が低い傾向にあることが確認できたため、授業内で自身で考えて記述させる機会をふやしていきたいと思う。また、特に「エネルギー」に関する事項について得点が低かったが、語句そのものの意味を忘れていることと、計算問題が多いことが原因で、プリントや問題集を活用し、語句の覚えなおしや計算方法の復習を念入りに行く。

##### < 英語 >

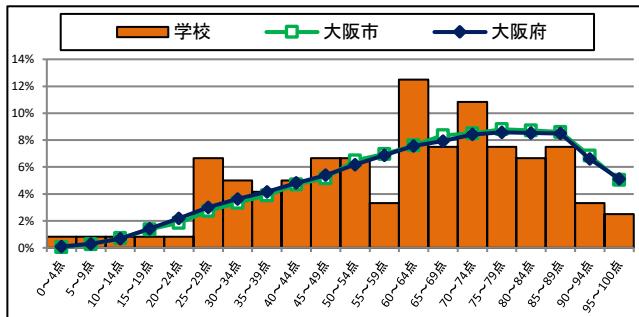
読むことと書くことが、聞くことに追いついていない。特に絵やポスターを見て内容を理解することができないことと、まとまった英文を十分に読解できていない点が目立った。また、正確に英語を書く力の向上が必要である。今後は、語彙力をあげ、様々な英語表現に触れる機会をさらに増やすことが必要である。

# 大阪市立喜連中学校 令和7年度「中学生チャレンジテスト(3年生)」検証用グラフ

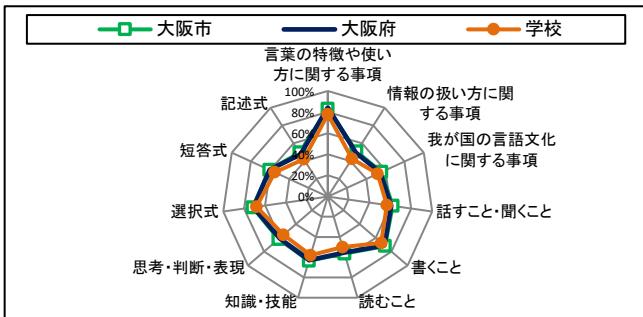
令和7年9月2日(火)実施

## 【国語】

### 【得点分布】

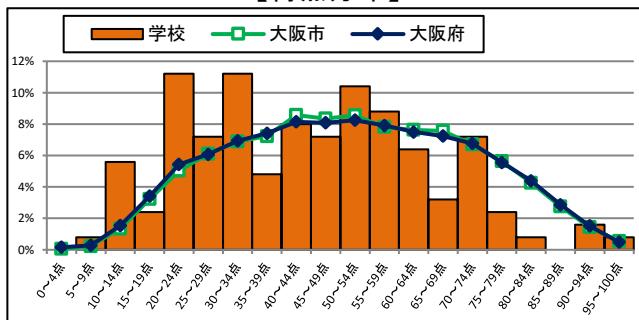


### 【内容・観点・問題別の分布】

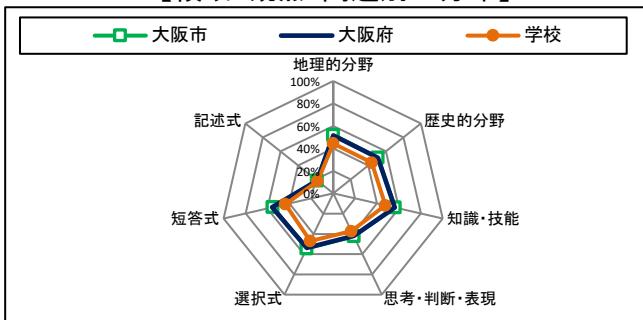


## 【社会】

### 【得点分布】

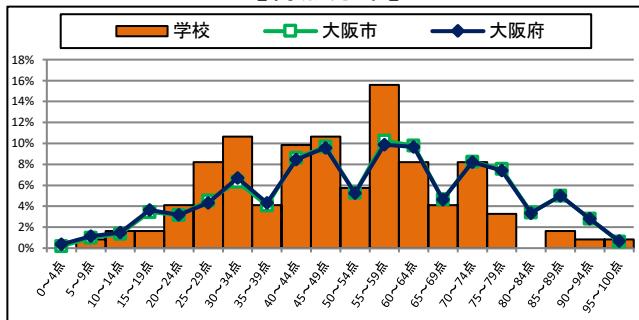


### 【領域・観点・問題別の分布】

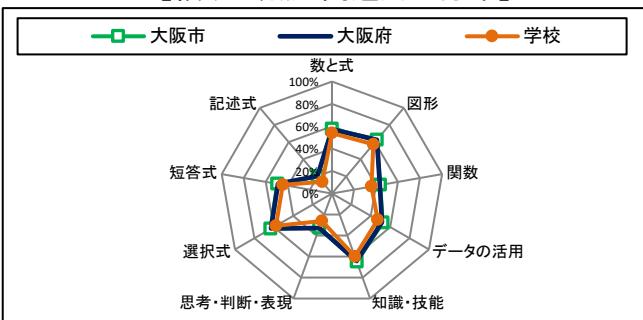


## 【数学】

### 【得点分布】

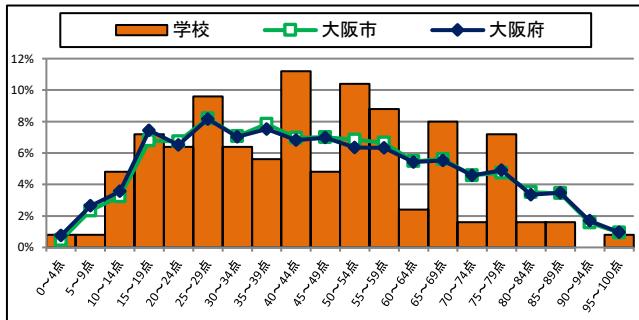


### 【領域・観点・問題別の分布】

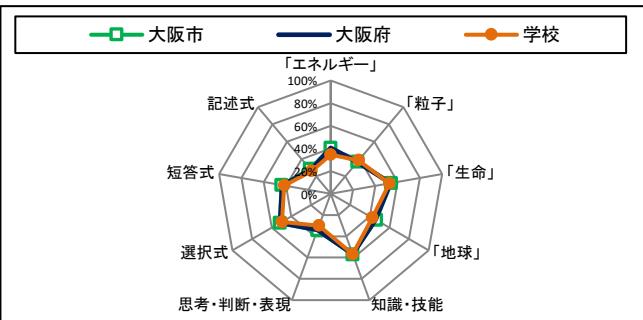


## 【理科B】

### 【得点分布】

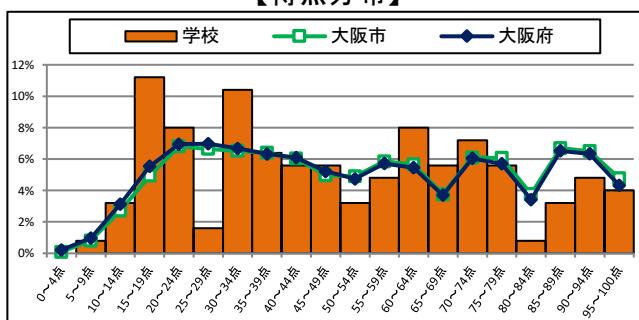


### 【領域・観点・問題別の分布】



## 【英語】

### 【得点分布】



### 【領域・観点・問題別の分布】

